

所属 英米学科	職名 准教授	氏名 松永京子	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
① ディスカッション形式	2011-2016	購読の授業は毎回ディスカッション用設問を用意し、学生がディスカッションをした後グループごとに発表する形式をとった。この形に慣れた後は、学生自身がディスカッション用設問を考えてディスカッションを行う形もとった。	
② パワーポイントの利用	2011-2016	歴史的・文化的背景を紹介するためパワーポイントを使用した。作家や作品に関連した映像作品も紹介するようにしている。	
③ 確認用小テスト	2011-20156	授業では毎回簡単な小テストを準備した。これは学生がテキストを読んでいることを確認するためとディスカッションの前準備のために用意した。学生からはテキストの内容を思い出すことができ役に立ったという声もあった。	
④ プリゼンテーション	2011-2016	作品や作家に関するテーマを決めて、グループごとにプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションの前段階として、少なくとも1週間前には発表内容を提出してもらい、簡単なミーティングを開いて内容を確認した。	
⑤ グループ・リーダー	2011-2016	作家・作品ごとにグループ・リーダーを決め、毎回授業でディスカッションを進行してもらった。ディスカッション用設問を考えたり、作品・作家の紹介を準備したりするのも学生で、学生中心の授業となった。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
① ハンドアウト	2011-2016	ディスカッション用設問や作家・作品を紹介した文章をハンドアウトで配布した。	
	2011-2016	キーワードやフレーズの説明、スライドをみながら重要語句等を埋めていくためのハンドアウトを作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
① トウェイン学会のシンポジウム	2011. 10.7	自伝をアメリカ文学の授業の教材として使う意義を紹介	
② 原爆文学研究会のワークショップ	2011. 12.25	日米の教育現場で原爆・核文学を取り上げる実践例を紹介	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
① 模擬授業	2012. 8.3	兵庫県立北摂三田高等学校	
② 招待講演	2012. 10.26	広島市立大学 Hiroshima and Peace Program	
③ スピーチコンテストチーフジャッジ	2013. 10.27	兵庫県高等学校英語研究部会・東須磨地区	
④ オープン・キャンパス模擬授業	2015.8.10	神戸市外国語大学	

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・共 著の別	発行または 発表の年月 (西暦でも 可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
<b>共編著</b>					
『オルタナティブ・ヴォイスを聴く—エスニシティとジェンダーで読む現代英語環境文学 103 選』	共編著	2011.7	音羽書房鶴見書店	伊藤詔子監修, 横田由理, 浅井千晶, 城戸光世, 松永京子, 真野剛, 水野敦子編.	
『カウンターナラティブから語るアメリカ文学』	共編著	2012	音羽書房鶴見書店	伊藤詔子監修、新田玲子編	
<b>共著 (分担)</b>					
<i>Critical Insights: American Multicultural Identity</i>	共著分担	2014	Salem Press	Ed. Linda Trinh Moser & Kathryn West	170-84
『核と災害の表象—日米の応答と証言』	共著分担	2015.3	英宝社	熊本早苗、信岡朝子編	110-40
『言葉という謎—英米文学・文化のアポリア』	共著分担	2015.3	大阪教育図書	御輿哲也、新野緑、吉川朗子編	291-305
<b>論文</b>					
「引き継がれる自伝、教材としての成長物語」	単著	2012.5	『マーク・トウェイン 研究と批評』 (第 11 号)		31-40
「核をめぐるアメリカ南西部の文学—サイモン・J・オーティーズの詩を中心に」	単著	2012.12	『原爆文学研究』 (第 1 1 号)		117-30
「科学と詩学が会うところ—マリルー・アウィアクタと原子のナラティブ」	単著	2013.12	『原爆文学研究』 (第 1 2 号)		122-35
“Leslie Marmon Silko and Nuclear Dissent in the American Southwest”	単著	2014	<i>The Japanese Journal of American Studies</i> (No.25)		67-87
“Before and After the Quake: Ruth L. Ozeki’s Global Narrative in the Nuclear Age”	単著	2014	<i>AALA Journal</i> (No. 20)		84-96
「「再生」される身体—文学における日系被爆者表象」	単著	2016	『エコクリティシズム・レビュー』 (第 9 号)		79-89

「ジェラルド・ヴィゼナーの『ヒロシマ・ブギ』における原爆ナラティブの軌跡-大田洋子と「ネイティブ・サヴァイヴァンス」をめぐって」	単著	2016	『原爆文学研究』（第12号）		61-75
<b>翻訳</b>					
マイケル・ゴーマン 「ニュークリアリズムと戦後アメリカ文化」		2012.12	『原爆文学研究』（第11号）		107-116
サイモン・J・オーティーズ 「もの：チキンと原爆」		2012.8.13	『西日本新聞』		10
<b>エッセイ</b>					
「レッド・ステイトで原爆を語るということ」	単著	2011.12	『原爆文学研究』（第10号）		222-26
<b>発表</b>					
“(Post)Colonial/Imperial Bodies and Atomic Bomb Narratives.”		2011.6.25	Ninth Biennial Conference for the Association for the study of Literature and Environment, Indiana University		
「先住民文学と（ポスト）コロニアリズム—シャーマン・アレクシーの詩と核の言説」		2011.8.8	第24回エコクリティシズム研究会シンポジウム「エスニシティとエコクリティシズム—現代エスニック・アメリカ文学を読む」、松山大学		
「引き継がれる自伝、教材としての成長物語—Anne Moody の <i>Coming of Age in Mississippi</i> 」		2011.10.7	日本マーク・トウェイン協会 2011年度年次大会シンポジウム「アメリカ文学と自伝」、近畿大学		
「日米の教育現場から」		2011.12.25	原爆文学研究会創立10周年記念ワークショップ「原爆文学研究この10年、これからの10年」福岡大学		
「アグリビジネスへの抵抗—ルース・L・オゼキの小説にみるアグリカルチュラル・アクティヴィズム」		2012.6.3	アメリカ学会第46回年次大会部会「食と住の社会正義」、名古屋大学		
「核をめぐるアメリカ南西部の文学—サイモン・J・オーティーズの詩を中心に」		2012.7.8	第39回原爆文学研究会 ワークショップ「北米文学における核の表象について」、広島大学東千田キャンパス		

「原子について語るとき—マリルー・アウィアクタと原子の詩学」	2013.5.11	九州アメリカ文学会第 59 会大会 シンポジウム「アトミック・エイジ のアメリカ文学」、県立長崎シーボ ルト大学	
「科学と原子が出会うところ—マリルー・アウィア クタと原子をめぐるナラティブの挑戦」	2013.6.9	中四国アメリカ文学会第 42 回大会 ワークショップ「カウンターナラテ ィヴから読むアメリカ文学」、松山 大学	
“Re-Considering Thea’s Ecological Epiphany in Willa Cather’s <i>The Song of the Lark</i> ”	2013. 6.17	The 14 <sup>th</sup> Willa Cather Seminar Flagstaff, Arizona	
3.11 以降のトランスパシフィック・ナラティブ —Ruth L. Ozeki の <i>A Tale for the Time Being</i> を中 心に	2013.11.30	中四国アメリカ学会第 43 回年次大 会シンポジウム「アメリカ研究のグ ローバル化 1—太平洋世界とアメ リカー」、広島経済大学立町キャン パス	
“Before and After the Quake: Ruth L. Ozeki’s Global Narrative in the Nuclear Age”	2014.9.28	AALA 25 <sup>th</sup> Anniversary International Forum, Kyoto U of Foreign Studies, Kyoto	
“From Tohoku to Desolation Sound: Ruth L. Ozeki’s Transpacific Eco-Narrative”	2014.11.7	Western Literature Association Conference, Victoria, British Columbia	
“The Legacy of Radioactive “Trauma” in Film: Uchida’s <i>Odayaka na nichijou</i> and Kurosawa’s <i>Ikimono no kiroku</i> ”	2014.11.22	ISLE-EA; International Symposium on Literature and Environment in East Asia, Meio University, Okinawa	
“Mining the Uranium Narrative: Environmental Injustice, the Oglala Incident, and Censorship.”	2015.6.24	ASLE Eleventh Biennial Conference. University of Idaho, Idaho	
「再生」される <i>hibakusha</i> の身体—日系アメリカ 文学における <i>hibakusha</i> 表象」	2015.8.8	第 28 回エコクリティシズム研究学 会大会ワークショップ「日系アメ リカ文学と原爆—Juliet S. Kono の <i>Anshu</i> をめぐって」、広島市立大学 サテライトキャンパス	

「公民権運動と反核運動のはざま—アフリカ系アメリカ文学における核・原爆表象の考察」		2015.11.28	中四国アメリカ学会第43回年次大会シンポジウム「ヒロシマとアメリカ」、県立広島大学	
「原爆、人種、環境—Langston Hughes の “Simple” Stories を中心に」		2015.12.6	第19回神戸市外国語大学英米学会、神戸市外国語大学ユニティ	
「ジェラルド・ヴィゼナーの『ヒロシマ・ブギ』—大田洋子と「ネイティヴ・サヴァイヴァンス」		2015.12.12	国際会議「核・原爆と表象／文学」、九州大学西新プラザ大会議室	
“Radioactive Discourse in Hiroshima: the Korean Hibakusha Redress Movement.”		2016. 6. 26	AAS-in-Asia Doshisha University, Kyoto	
「L.M. シルコーの Almanac of the Dead における汎部族的ニュークリア・アクティヴィズム」		2016. 8. 6	SES-J/MESA 合同大会シンポジウム「クロスエスニックの文学とエコクリティシズム」大東文化会館	
「ハンフォードをめぐる汚染の言説と先住民表象」		2016. 8. 21	第22回 ASLE-J 文学・環境学会全国大会シンポジウム「原発・原子力と文学」AOSSA 福井市地域交流プラザ	

### Ⅲ 学会等および社会における主な活動

2011-2013 年	エコクリティシズム研究会査読委員
2011-2013 年	日本ソロー学会 役員会委員
2011-2016 年	エコクリティシズム研究会『エコクリティシズム・レビュー』出版委員会
2014-2015 年	原爆文学研究会 世話人会メンバー
2013-2015 年	日本アメリカ学会大会運営委員
2014-2016 年	日本アメリカ文学会事務局幹事
2014-2016 年	ASLE-J 役員会委員（広報）